

(3) 歴史・特性

菊池市は、古代は鞠智城、中世は市名に名を残す菊池一族の統治による政治・文化の中心地として栄え、政治・教育・文化面において大きく影響を与えており、現在でも多くの遺跡が各地に残っています。江戸・明治期には農業技術先進地として、また良質な米の集散地である商業都市として発展してきました。

合併前の4市町村は、経済・文化・生活等のさまざまな分野で密接な関係があり、市町村域を越えた住民相互の交流が活発に行われていました。他方、行政においても、市町村の枠を超えた広域的な行政需要に対応するため、広域連合や広域行政事務組合等の共同事務を行っていました。

しかしながら、地方分権、少子・高齢化等の大きく変化する社会潮流の中で行財政基盤を充実強化することにより、多様化・高度化する住民ニーズに対応することが求められ、4市町村が対等な立場で一体となって、まちづくりを進めることとなったのです。

本市は、豊かな自然を生かした農林業を基幹産業としており、県内一の生産量を誇るシイタケ、菊池米の「きくちのまんま」と「七城のこめ」、「七城メロン」及び「旭志牛」などはブランド化され県内外へ出荷されています。また、多様な消費者ニーズに対応した安全・安心・高品質な農産物により、消費者と生産者の信頼が求められる中、市内各地の物産館や特産品センターでは、新鮮な農産物の直売を通して消費者と生産者のつながりを深める取り組みが好評を得ています。

農林業だけでなく、近年は各地に工業団地を整備し、企業誘致にも力を入れてきました。菊池・森北、林原・蘇崎、川辺・北熊本、富の原・永・住吉・田島の各工業団地には、IT、バイオなどの先端企業を中心に企業立地が進んでいます。

観光は、毎年40万人の観光客が訪れる菊池渓谷や旅情豊かな菊池温泉のほか、各地に桜、コスモス、ホテルなどの四季を彩る自然や菊池一族の歴史と伝統を物語る観光スポット、レジャー施設を有しており、県内外から多くの観光客を集めています。近年は、国際交流の推進による外国人観光客の誘客にも努めてきました。韓国や中国の都市と姉妹・友好都市提携するほか、修学旅行生を中心とした韓国人誘客を進め、外国人観光客の大幅な増加に転じたところです。



第15代菊池武光公の「騎馬像」(菊池市民広場)

武光は、1344年菊池の本城(深川城)を恵良性澄の協力を得て取り戻し、15代惣領を實力で確立した。その後、後醍醐天皇の皇子懐良親王を迎え入れ各地を転戦。1361年大宰府の少弐を攻め落とし、征西將軍府を置き、九州統一を成し遂げた。